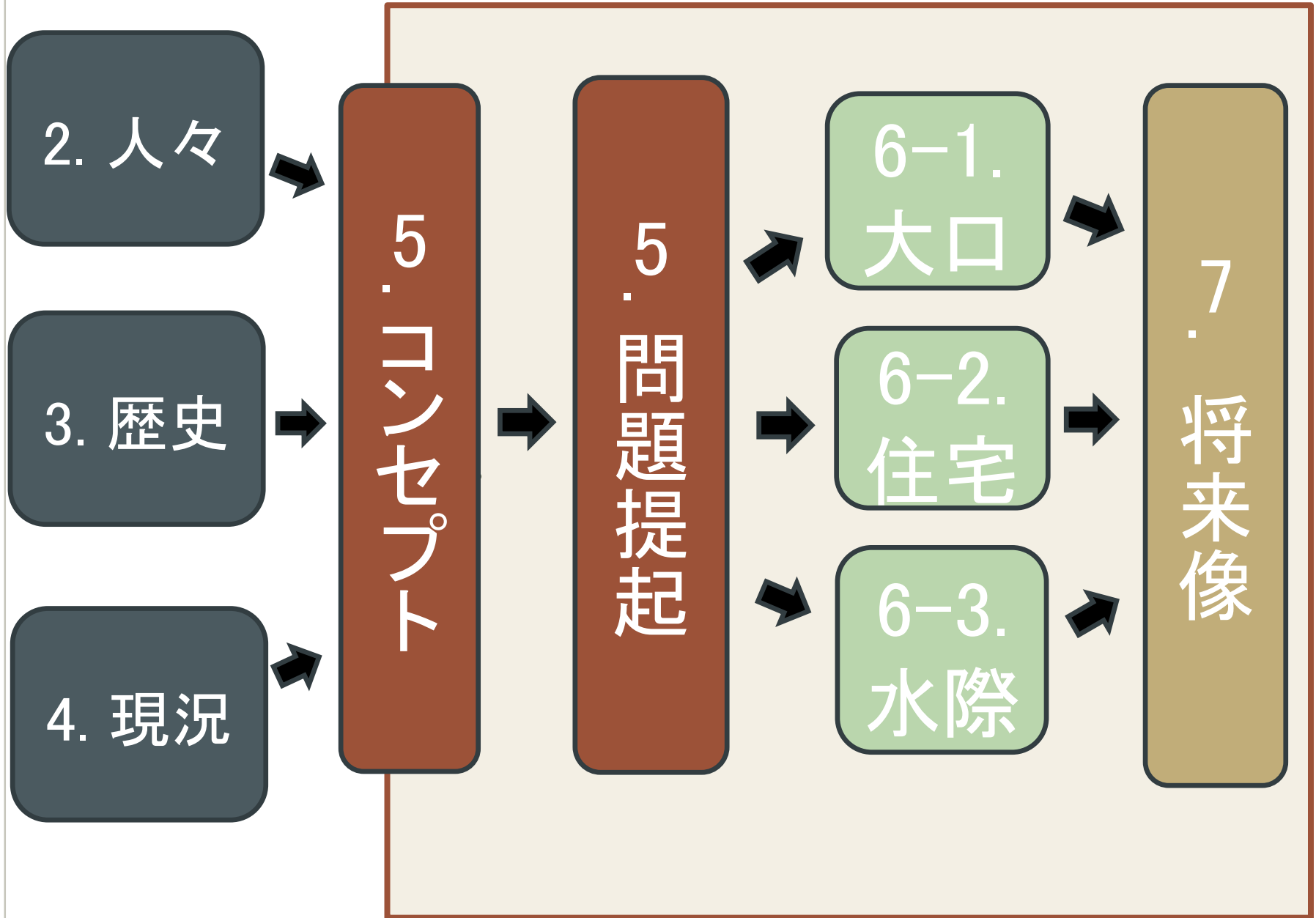


1. イントロダクション



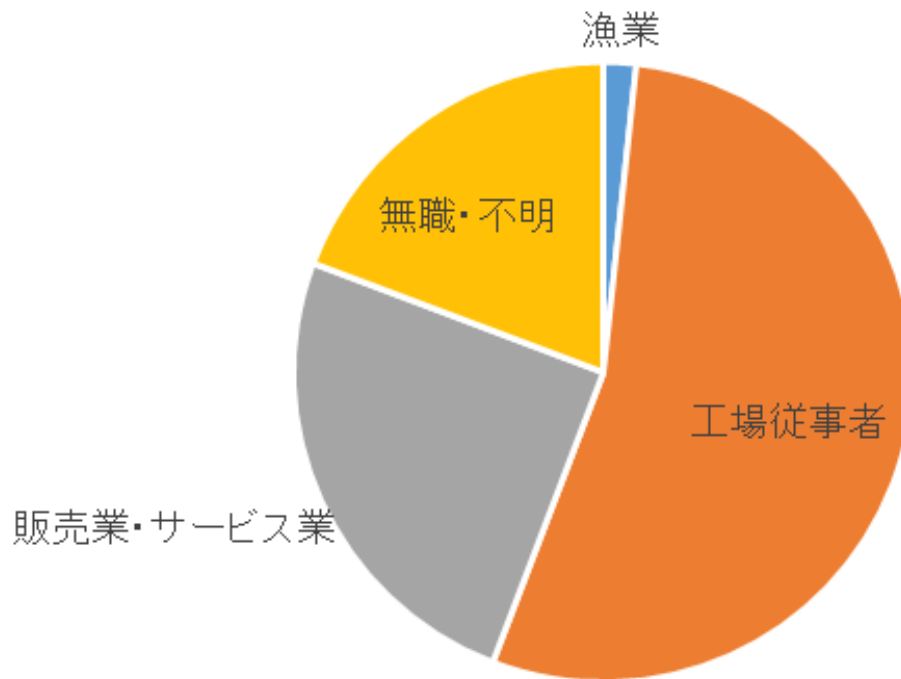
↑ 研究対象: 横浜市神奈川区子安浜



↑ 研究の流れ

2. 子安浜の人々

子安浜・大口地区の住民の職業割合



・漁業1%、工場労働46%

・主な勤務先は埋立地の工場

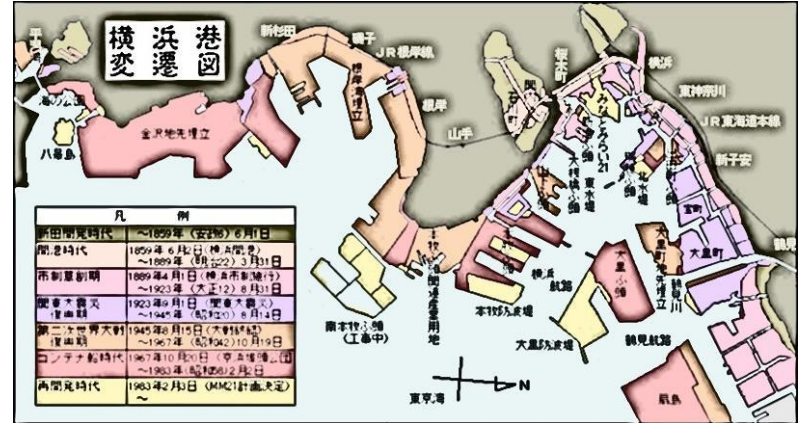
3. 子安浜の歴史

漁業700年

埋立地

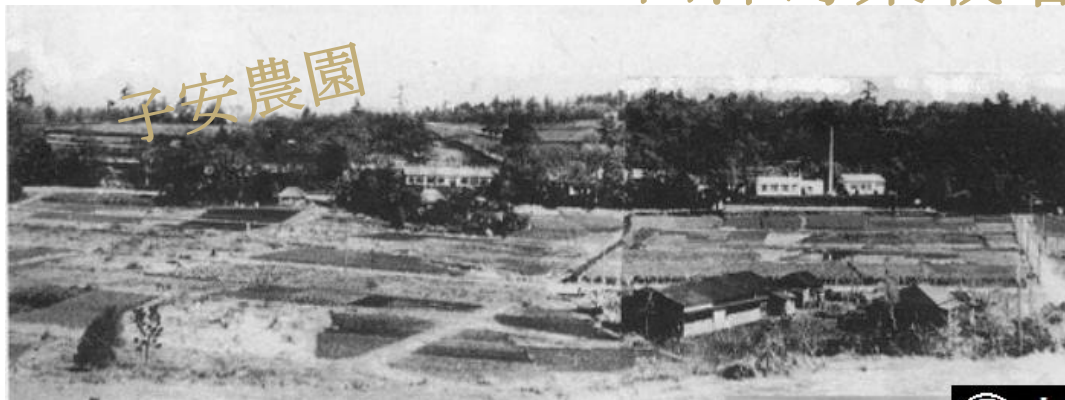


© とらよこ沿線

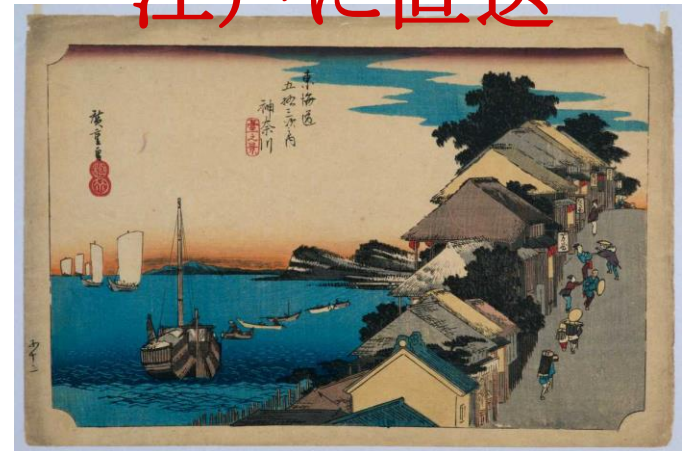


西洋野菜栽培

江戸に直送



子安農園



新規漁業者の参入

- ・水質の改善

昭和50年代に入ると、出戻り・新規参入漁師が増加

- ・漁業の再開

漁業権を必要としないアナゴ漁中心。現在の景観はこのころ形成

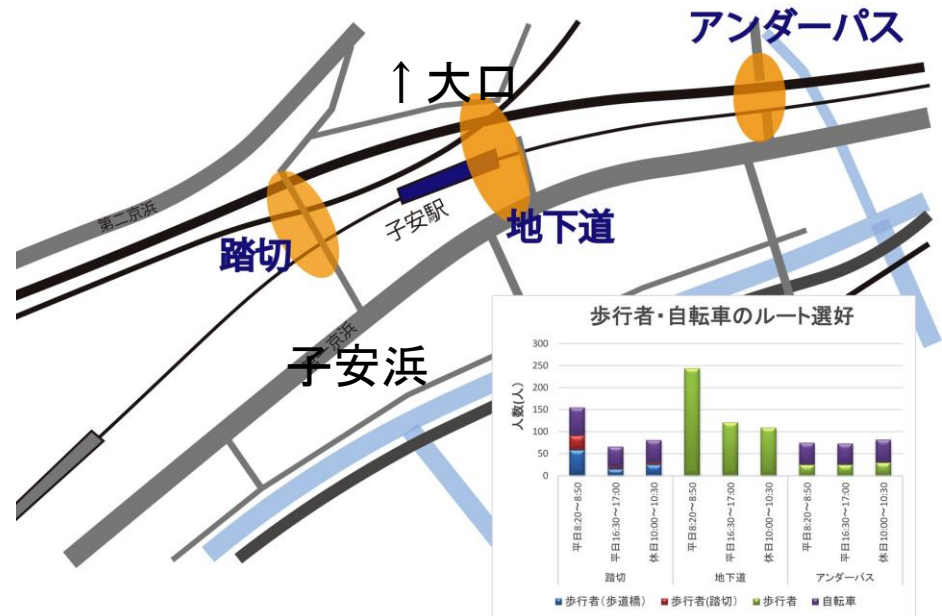
＝ここ数十年はほとんど変化なし



4. 子安浜の現況(地理)



- ・東海道線、首都高
- ・東京-横浜
- ・買物先...大口通商店街、



4. 子安浜の現況(住宅地)



- ・住宅地...木造密集住宅で細い路地や井戸が存在。居心地の良さと同時に放置空家による防災・防犯上の懸念、車両通行の不便。

4. 子安浜の現況(水際)

- ・水際…浜通りの幅員は5m程度。建築物は主として駐車場、漁業関連施設として利用。使われていない建物の老朽化・所有権の不明瞭さなどの問題



4. 子安浜の現況(水際)

- ・入江川…特徴的な景観、船はほとんど使っていない。水中の廃船は船舶通行の妨げ。漁師による専有、住民の親水はほぼない



- ・埋立地…工場。子安浜の住人の勤務先、防潮堤の機能。

5. コンセプト

- ・軸：東京・横浜とのつながり
- ・子安浜 = 「大都市のアクションに対して柔軟に対応する可変性をもつまち」
- ・今後もその可変性が機能するまちであるべき

コンセプト：子安浜の可変性を阻害する問題を排除し、土地や空間の多様な用途を提案

5. コンセプト

・可変性を阻害する三つの要因

1) 大口方面への移動の困難

(=住みにくさ)

2) 過剰な住宅密集

(=新陳代謝の悪さ・災害への脆弱性)

3) 水際の専有、廃船の放置

(=用途・利用主体の限定)

...これらの解決で子安浜の可変性を機能可能に

6-1. 大口とのコネクション

- ・主要買い物先である大口へのアクセス性改善
→ 子安浜の暮らしやすさ向上、新規入居の促進

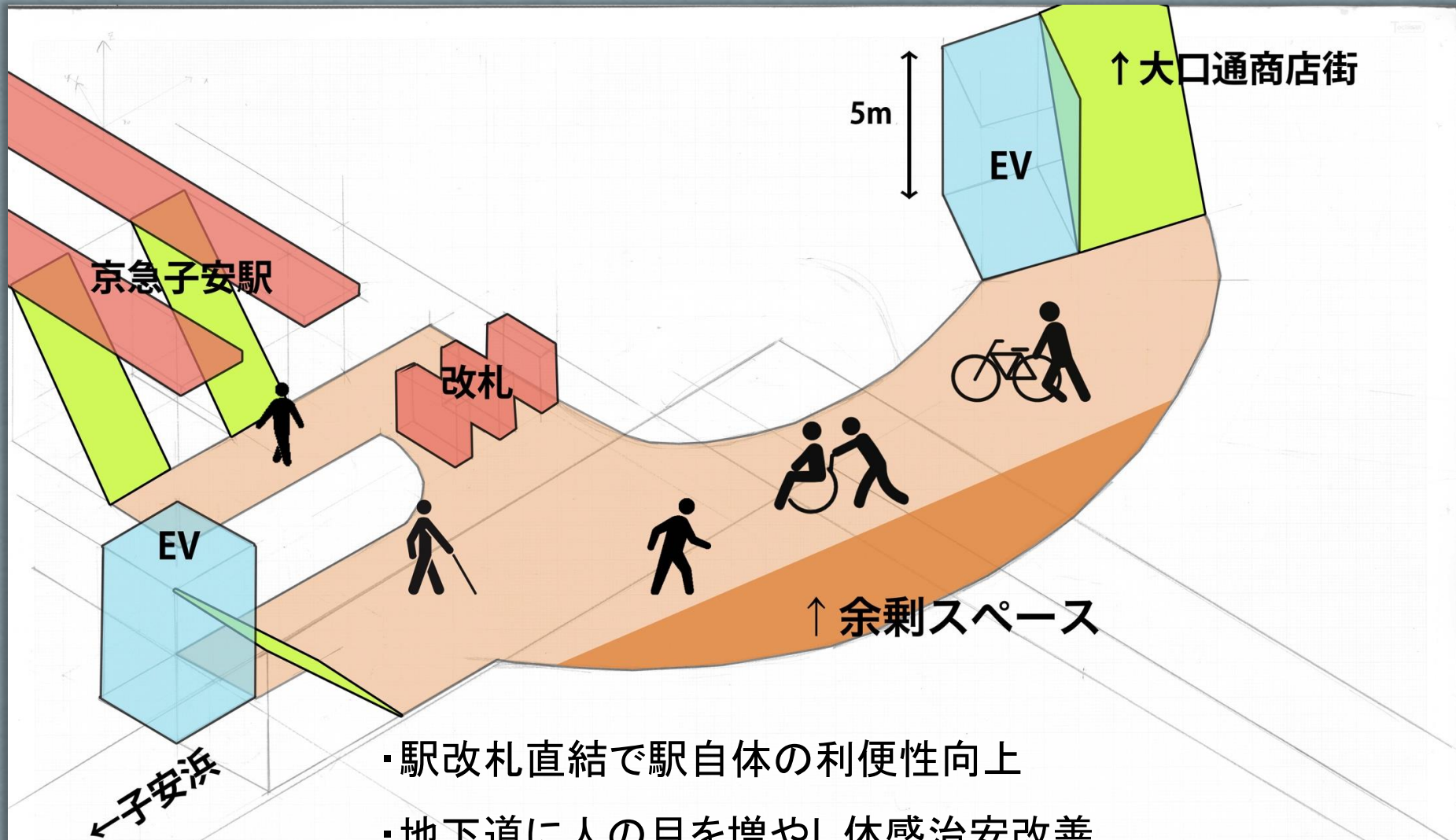


↑ 現在の地下道



↑ 改修後

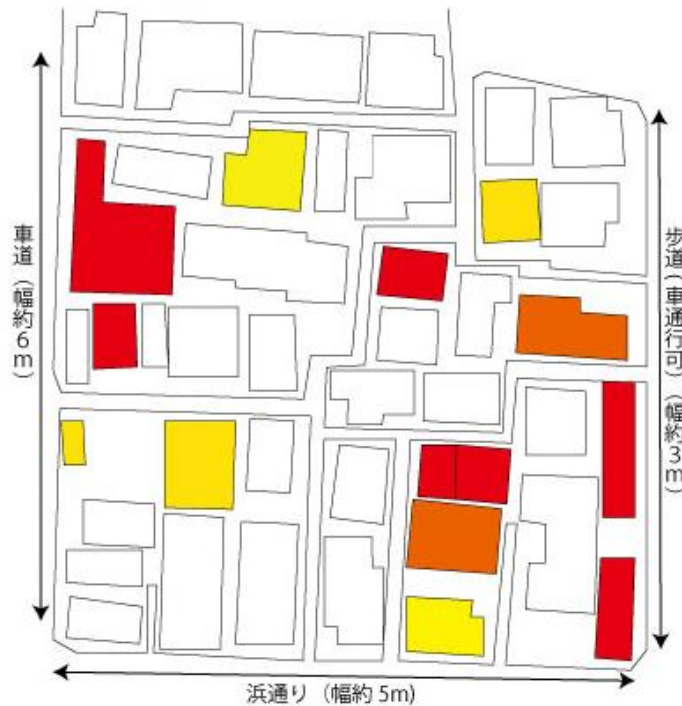
- ・地下道拡幅、スロープとエレベーター設置による利便性の向上
- ・アーケード延長で大口と直結



- ・駅改札直結で駅自体の利便性向上
- ・地下道に人の目を増やし体感治安改善
- ・拡幅による余剰スペースは地域の掲示板や商店などに
- ・混雑時間帯は踏切を閉じて交通を地下道に流す

6-2. 健全な住環境

- ・従来の細路地と空き地を生かし中路地・小広場を漸次整備
- 現在の暮らしに配慮しつつ住宅の新陳代謝を健全化

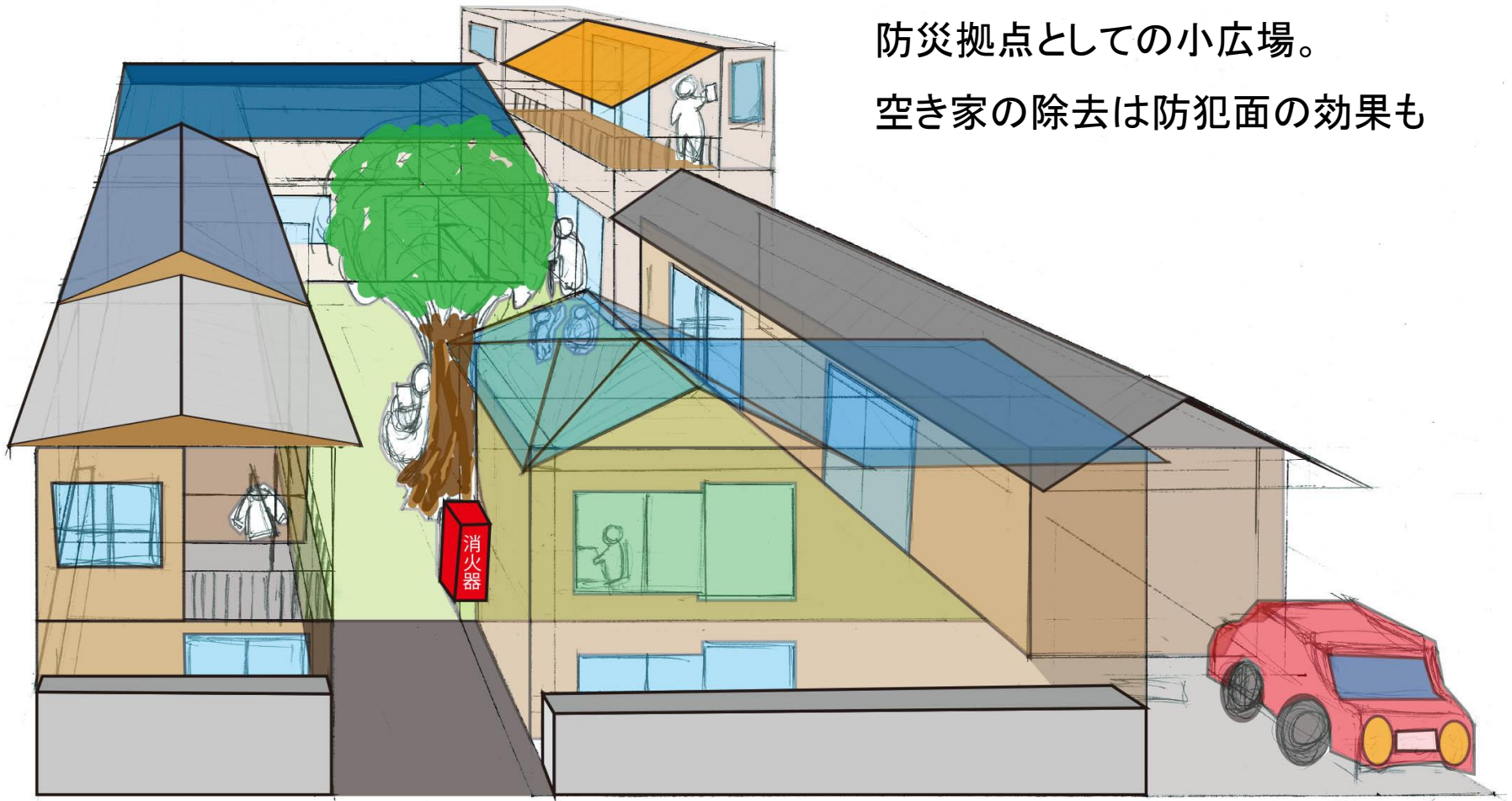


現在の住宅地



整備後の住宅地

↓ 人々の暮らしの場、憩いの空間、
防災拠点としての小広場。
空き家の除去は防犯面の効果も



↑ 小広場イメージ

6-3. 水際の複合的利用

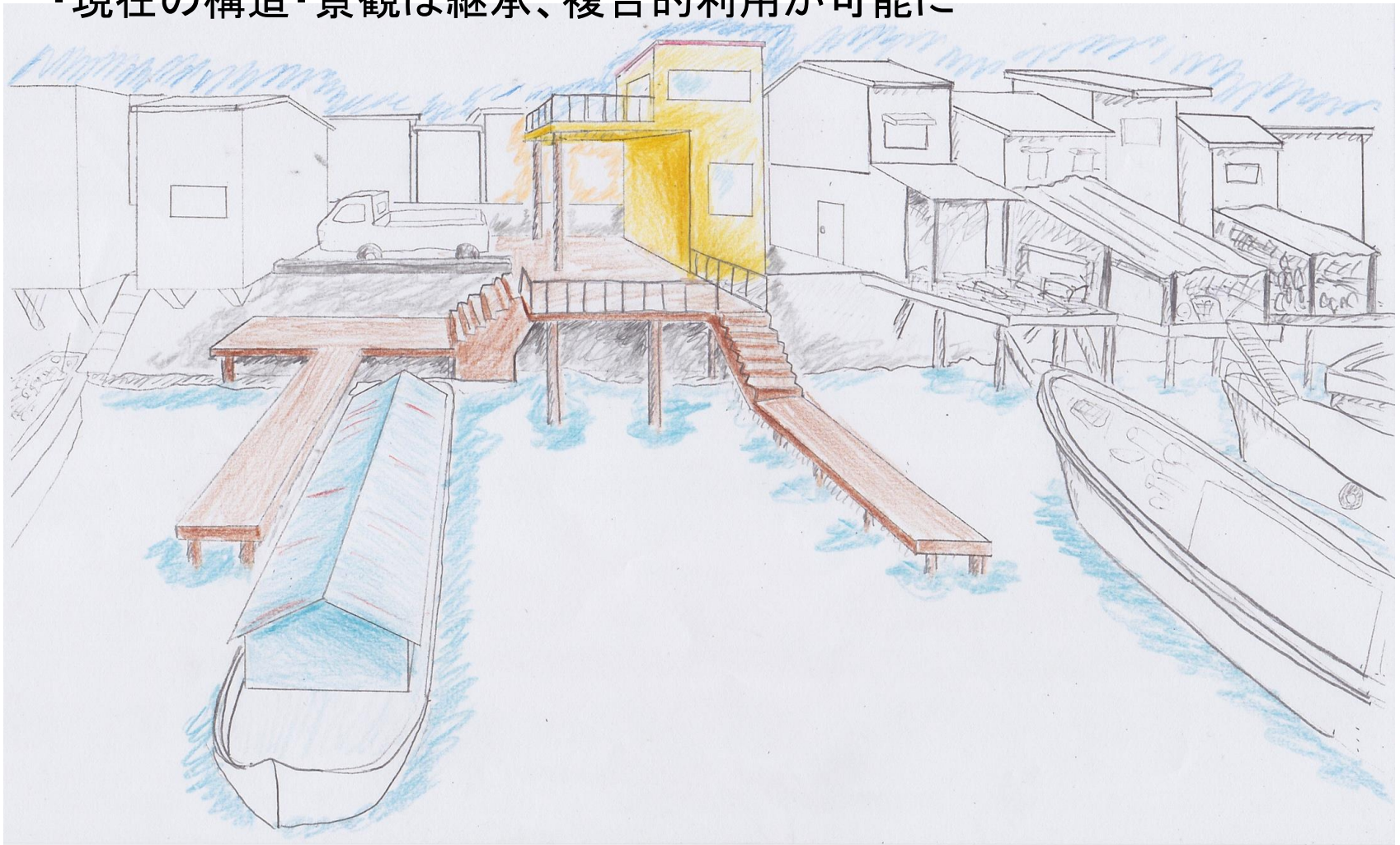
- ・権利関係の整理、漁業と今の景観に配慮しつつ、複合利用可能な空間を創設
 - 水際を多様な主体・様々な用途のありうる空間に
- ・稼働しているもの…維持
- ・駐車場→第一京浜沿い
- ・漁業の周囲…オープンスペース
- ・それ以外…ピロティ式建物など

- ・建て替えの容易な構造
- ・二層構造で浜通りからの見通し確保
- ・浜通りからは二階部分が首都高を隠す
- ・川へのアクセス性改善、水際意識を持てる空間に



↑ピロティ式建物

- ・川に伸びるデッキは親水空間・船着場として機能
- ・二階は居酒屋、直売所、コミュニティセンターなど様々に利用
- ・現在の構造・景観は継承、複合的利用が可能に



↑ピロティ式建物(埋立地側から)

東西交通を阻害せず
南北の行き来を活発化

- ・子安駅地下道整備
- ・大口通一番街を駅ビルの位置づけに

路地空間を守りつつ
防災性向上

- ・空き家の撤去
- ・最低限の道路拡幅
- ・共用の"庭"

再整備された水際・広がる可能性

- ・廃船処理の促進
- ・権利関係の把握・処理
- ・オープンスペースやピロティ
- ・漁業の利便性は維持向上

↑ 改善点のまとめ

7. まとめ – 子安浜の未来

・子安浜は三つのゾーンが複合的に連なるまちに

1) 第一京浜沿い…「玄関部」

…車置きとしての機能、第一京浜への良好なアクセス

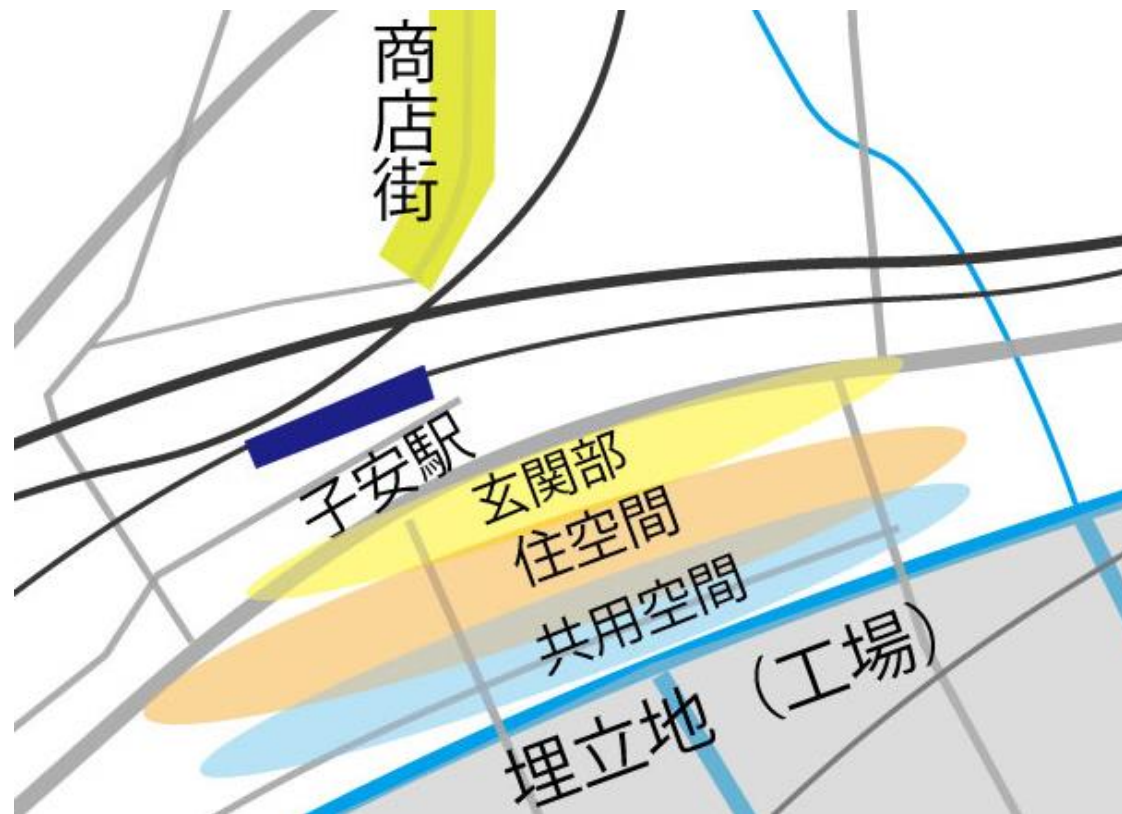
2) 内側…「住空間」

…プライベート感が宿り、人々の憩える住宅地。道路
と広場整備による新陳代謝の活発化

3) 水際…「共用空間」

…漁師、住民、工場労働者らによる利用、現在を継承
しつつ様々な用途や親水の実現

→ 子安浜は現在の暮らし・生業・景観を保ちつつ、新陳代謝の良い可変的なまちに。東京や横浜の変化に呼応して時代にあったまちに変容していくことができる。



↑ 子安浜に3つのゾーンが複合的に連なる